

愛労連第 59 回臨時大会あいさつ

副議長 鈴木紀代子

愛労連副議長の鈴木です。代議員の皆さん、本日はお忙しい中早朝より愛労連春闘臨時大会へのご参加ご苦勞様です。幹事会を代表いたしまして一言ご挨拶を述べさせていただきます。

さて、第 197 臨時国会が 10 日に閉会しました。安倍政権はこの国会で、外国人労働者の受け入れを拡大する入管法の改定をはじめ、漁業法、水道法の改悪、日欧 E P A などの成立を強行しました。特に、入管法の改定については、愛労連議長の樽松さんが長年技能実習生を支援してきたこともあり、この間何度も国会に足を運び、その劣悪な労働実態について明らかにしてきました。しかし安倍政権は安上がりを使い捨てにできる労働者が欲しいという財界の要求に応えるため、わずかな審議時間で押し通しました。また、人間にとって命に関わる水を企業の儲けの対象にする水道法の改悪、浜の漁業を企業に明け渡す漁業法の改悪、酪農家などを危機に追い込む日欧 E P A の承認など私たちのいのちと生活を脅かす大きな問題をまともに審議することなく数の力で成立させました。12 月 11 日に行われた世論調査では、内閣支持率は産経新聞で 2 ポイント、NHK で 5 ポイント下がり、入管法の改定についてはこの国会でやらなくて良いが 71% となっており、今国会の強引な運営について国民は NO! を突きつけています。

また、沖縄県知事選で玉城デニー氏が圧勝し、その後の市長選挙でも新基地建設反対の候補者が当選し、沖縄に基地はいらないという民意が示されたにも関わらず、安倍政権は工事を再開し、昨日土砂を投入するという暴挙を行いました。しかし、こうした安倍政権の強権的な姿勢は「強さ」ではなく、安倍政治が国民の運動と世論の前に焦りを募らせていることの表れでもあります。自衛隊を憲法に明記する改憲案の今国会への提示は実現しませんでした。この間のどの世論調査でも、改憲を望む声は少数です。これは市民と野党の共闘で進めてきた 3000 万人署名などの私たちの運動の成果です。しかし安倍政権は来年の通常国会への改憲案の提出をねらっています。改憲を断念に追い込み安倍政権を退陣させるまで、国民的な戦いを発展させることが極めて重要な情勢であるといえます。

トヨタ自動車をはじめ、大企業の業績は好調です。それを反映して近年は高校生の就職も順調です。しかし、愛知県の高卒生の 3 年以内の離職率は依然として 4 割近くに上っています。いったん離職すると次の正社員での再就職は難しく、非正規労働者となってしまいます。離職の理由は休みが少ないなど労働条件の悪さです。事務職を希望しても求人数が少なくやむなく介護などに回り、低賃金と労働条件の悪さから早期に離職してしまいます。トヨタ自動車の内部留保は 2 兆 8 千 7 百 7 2 億円を計上しており国内企業では群を抜い

ています。この内部留保を労働者の賃金や、下請け企業の単価を上げることに回せば、労働者や中小企業が元気になり地域経済も活性化することになります。愛知県は高校生の就職が全国一といわれています。希望をもって社会に巣立った子供たちが意欲を持って働き続けられる労働環境の整備が急務です。

文科省は教員の働き方改革と称して、時間外労働の上限などを定めたガイドラインを提示しました。時間外労働の上限を45時間としながら特例として過労死ラインである月100時間未満も可能としています。一方で残業代の支払いや教職員の増員の計画もありません。まさに安倍政権が先の通常国会で強行した国の働き方改革関連法案の教員版といえます。しかも中教審特別部会は長時間労働を覆い隠す1年単位の変形労働時間制の導入を発表しました。県立学校の教員の休職者のうち精神疾患によるものが2017年度1年間で求職者全体の7割にも達しています。しかも20代、30代の青年教職員が増加をしているということです。100時間の時間外労働を認めたり、1年単位の変形労働時間制により、恒常的な長時間労働が増加し、しかもそれが時間外とされないとなると、さらに青年教職員の休職者が増えることになりかねません。健康で働くことは労働者の権利でもあります。

8時間働けば人間らしい暮らしができる社会にするため、大幅賃上げ、人間らしく働く真の働き方改革を求め2019年春闘を頑張りましょう。

2月3日投票で行われる愛知県知事選挙の候補者に愛労連議長のくれまつ佐一さんが立候補をされました。全国第2位の豊かな財政力を県民の暮らし・福祉・教育に生かす県政に転換するため、愛労連としてもくれまつ候補を押し上げ、あと1か月半の選挙を戦います。くれまつさんが立候補を表明し、革新県政の会の政策が発表されると、12月7日付の中日新聞に「県立高のトイレをすべて様式化」とした記事が載りました。革新県政の会は県民の様々な要求を県に伝え、交渉してきました。こうした粘り強い運動が少しずつ実を結んでいることを感じました。大企業本位から住民が主人公の愛知県政にするため、全力で知事選を戦いましょう。

憲法を守り生かす運動、労働者の生活と権利を守る運動、そして県民の要求を実現し暮らしを守る運動の先頭に立つ愛労連を強く大きくすることが今、求められています。そのためにも各単産地域で組織拡大強化を旺盛に進めましょう。

本日の愛労連春闘臨時大会において代議員の皆さんの旺盛な議論がされることを期待して私のあいさつとさせていただきます。